

4

大切な子どもの命を守る小児医療に必要なこと

4

このチラシは全部で4種類作成しています。こちらはその第4号です。



はまぐち 仁士 42歳・新人 無所属

<プロフィール>

- ◆1972年6月西宮市生まれ。小学5年生の息子と1歳の娘の父。
- ◆市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、県立甲山高等学校卒業。
- ◆神戸ベイシェラトンのオープニングスタッフ等を経て1998年に松原町にて「Cafe&Bar savro (Bar三郎)」、2000年に西宮浜にて「Trattoria & Cafe COMODO」をオープン。
- ◆2014年西宮市長選挙で今村岳司スタッフとして活動後、私設秘書に就任。2014年9月末で秘書業務とすべての店舗を撤退して政治活動を開始。

多くの方に反響を頂いております！お気軽にご連絡を！

この活動を通じてたくさんの方から反響を頂いております。

そしてもっとたくさんの方々とお話がしたい。そんな思いが日々強くなっています。
「大好きな街だから」「子どもや孫の未来の為に」「安心して老後を暮らせる街にしたい」
皆さんそんな西宮への思いを是非お聞かせください。

お問い合わせ先：TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com

<http://goo.gl/pEHp1> <http://www.h-hamaguchi.com/> はまぐち仁士 検索

こどもを持つ親として、西宮における子どもの医療環境は気になるところだと思います。特に深夜発生する不足の事態に対応するための小児救急は、命に関わる問題とあって早急に解決しなければならない課題です。

私はこの問題について小児科の医師の方々とお話をしました。すると全ての医師から同じ回答が返ってきました。

「西宮の小児救急の環境はまだ恵まれているほうです。」

しかし市民の多くは西宮市の救急医療に不満を持っています。何故か。こどもの状態に異変が起これば当然親として心配をします。万が一があつてはいけないので診療時間外に見てくれる応急診療所や、深夜であれば救急車を呼びます。しかし、お話をした医師はその大半のこどもは様子を見て翌日に診察を受けても問題ない患者さんであるとのご指摘でした。いわゆる「コンビニ受診」です。この影響で夜診や救急は慢性的な混雑状態を引き起こし、不満の原因になっています。

確かにこどもが熱を出していれば心配なのは私も同じ子を持つ親として理解出来ます。同じ境遇であれば私も同様に夜診に連れて行くかもしれません。しかし、そんな行動が結果としてこどもたちの医療環境を悪くしているとしたらどうでしょうか。

兵庫県丹波市。市の面積は約四百九十三キロ平方メートルで西宮市の五倍、人口は約六万五千人。この街にある唯一の小児科が閉鎖の危機に追い込まれました。原因は「コンビニ受診」による医師への負担でした。そこで丹波市民は「小児科を守る会」を作り、三つのスロー

ガンを掲げます。それは「コンビニ受診を控えよう」「かかりつけ医を持つとう」「お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」です。この取り組みはとても話題になりました。

こどもを守るために医師が必要です。丹波市民は小児科閉鎖という危機をもつて初めてその大事さに気付きました。我々は恵まれた環境のあまり、この大事なことを見逃しているのではないでしょうか。

丹波市ではコンビニ受診を減らす為の啓発活動を行っています。こどもがどのような状態であれば救急車を呼ぶのか、どのような状態であれば家で様子を見て次の日に病院に連れて行けば良いかをチャートでわかりやすく説明した冊子を配布しています。こうした活動で救急や夜診の数が減れば、重篤なこどもを素早く診察できる環境が生まれます。また公益社団法人日本小児科学会が監修する「子どもの救急」というサイトがあります。子どもの症状をチェックしてクリックするだけでどういう対応をすべきかアドバイスが表示されます。パソコンやスマートフォンで使える便利なサイトです。「子どもの救急」と検索すれば一番上に表示されます。是非一度ご覧下さい。

もちろん、同時に医療側に対しても要望も行います。こうして双方が歩み寄りを見せることで「信頼関係」が生まれ、医療現場に「ゆとり」も生まれ、結果として子どもの医療環境が改善されると考えます。本当に子どもの命の危険に陥ったときに後悔しない為にも最後まで読んで頂き誠にありがとうございました。